

要旨

「シェアリングエコノミー」は、21世紀になり、テクノロジー技術の発展により普及した。この経済モデルの主な特徴は、第三者が作成した情報を共有するプラットフォームを通じて、個人間でモノやサービスをシェアすることができることである。本質的に、シェアリングエコノミーは「協同消費」というライフスタイルであり、遊休資源を「シェアする」ことで活用を促進するために、所有者は自分が持っているモノ、スペース、時間などを他のユーザーに貸し借りたりする。このモデルでは、必要に応じて誰でも同時に供給者と消費者になり、利益を生み出すことができる。

シェアリングエコノミーの基礎の1つは遊休資産であり、インターネットの普及がもう一つの重要な基礎である。特に、アプリケーションプラットフォームの継続的な開発により、オンライン決済システムおよび相互評価システムは成熟し、シェアリングエコノミーの発展を加速することができる。

シェアリングエコノミーはオフラインの遊休資源を統合し、より安い価格でモノやサービスを提供することを可能にする。提供者にとっては、一定期間に所有権を放棄することによって新たな利益が得られ、利用者については、モノの所有権を直接「所有する」のではなく、「共有する」ことによって使用でき、経済発展に伴う過剰生産、過剰消費を見直すこともできる。プラットフォームは情報を集め、個々の消費者を助け、資源再分配することができる。同時に、相互評価システムの導入により、個人事業主側は質のいいモノまたはより良いサービスの提供をすることになる。シェアリングエコノミーのメリットは、オフラインリソースを統合し、コストを削減し、効率を向上させ、そして個性のある製品を提供することであろう。

シェアリングエコノミーという新しい経済モデルは10年間をかけて、世界中で急速に発展してきた。宿泊、交通、教育、家政、スペース、専門家の共有、コミュニティサービスの共有、ツアーガイドの共有など、様々なシェアリングエコノミー企業が次々と登場している。いま、多くの国のサービス業界で最も重要な役割を担っている。

人口大国であり、消費大国である中国は、経済発展の進展に伴い、シェアリングエコノミーの市場規模が大きくなっている。中国政府もシェアリングエコノミーの発展を積極的に支援している。シェア自転車、シェア傘、シェア充電器、シェアカーなど、中国におけるシェアリングエコノミー産業は様々な分野で展開している。本論文は、中国の代表的な

シェアリングサービスの一つであるカーシェア企業「滴滴出行」(DiDi chuxing)を中心に、中国におけるシェアリングエコノミービジネスモデルの展開を研究する。

滴滴出行は2012年に設立された配車アプリ運営およびカーシェア企業である。最初はタクシー配車事業者として設立されたのが、現在ではカーシェア、カーレンタル、専用車サービス、相乗りサービスなど複数のサービスを展開している。2017年時点で、1日当たりの利用者数は約2500万回に達し、中国約400都市で、4億人以上のユーザーにサービスを提供している。ドライバーと乗客との間でオンラインマッチングをすることで、滴滴出行はドライバーが乗客を待つという伝統的なタクシーの方式を変え、ドライバー自身が「注文」を受け入れ、乗客を迎えに行くようになった。決済もオンラインのため、ドライバーと乗客の間にo2o(online to offline)の繋がりサイクルを形成し、より効率的に出行サービスを提供することができる。

2016年8月1日、滴滴出行はアメリカ大手カーシェア企業Uber(ウーバー)の中国事業を買収することを発表した。この買収により、滴滴出行は、中国の三大大手インターネット関連企業であるテンセント、アリババ、百度すべてから出資を受けている唯一の会社になった。2017年4月、滴滴は55億ドル以上の資金を調達し、世界で最も価値の高いシェアリングエコノミー会社の一つになった。さらに、2018年滴滴は「交通大脳」という新しい戦略商品を発表し、ビッグデータ販売事業を始めた。滴滴出行は配車事業や車の稼働率向上させることだけではなく、自分の持つ人工知能技術(AI)やビッグデータを活用して、世界で有数のスマート交通プラットフォームをも目指している。また、2018年2月9日、滴滴はソフトバンクと提携し、日本に進出することを発表した。

ただし、滴滴出行の事業は拡大しているが、同時に、伝統タクシー業界からの抵抗、ドライバーの身分確認、車保険加入の有無、乗客に対する安全性などいくつかの問題点も指摘されている。これらの新しい状況に対応して、滴滴側はすぐ対応策を打ち出し、中国交通省側も関連規制の策定が始まっている。

中国のシェアリングエコノミーは急速な発展のため、問題点を抱えながら、新たな展開期を迎えていると思われる。